

ふらのの食材を食卓に

ふらの食と農の 創造プロジェクト



▲マルシェ2内で彩り菜のスタッフと打ち合わせをするメンバー

食と農業を通じて、地域の魅力を学んだり、異業種との連携や情報発信をしようとする今年3月に発足した、ふらの食と農の創造プロジェクト（薄田健格代表）。「美味しい、楽しい、健康的」な農産物作りを目標に掲げ、富良野の食と農業の魅力を試行錯誤しながら研究・実践しています。

主な取り組みは、農業をさまざまな角度から学び、



▲採りたての新鮮な野菜を自分たちで陳列

課題も見つけながらお互いに切磋琢磨すること、魅力ある富良野の農産物を多くの人に知ってもらうこと。今年6月にオープンしたマルシェ2内に店舗を構える「彩り菜」では、玉ねぎやじゃがいもをはじめ、さまざまな採りたての新鮮な旬の野菜を販売し、富良野の魅力を発信しています。

「野菜の品種名やサラダに向いているなど品種ごとの特性や調理方法を記載し、消費者目線で野菜を販売しています」と話す薄田代表。その反面、生産者の名前を販売品に掲示することで、良いものを作るといふプレッシャーを自分たちにかげながら、購入してくれる消費者の声にも耳を傾けています。



◀野菜の特徴や食べ方をそれぞれ記載



いるという利点を生かし、美味しい農産物をより美味しく食べる知識を多くの市民にも広めたい」と、冬期間に美味しい農産物を表現できるような催しなどを開催する予定です。

また、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）により、農業のまちとして生き残るための方向性を模索するため、「観光に関わる人たちをはじめ、さまざまな人や団体と一緒に学びながら考えていきたい」と話す薄田代表。農産物の美味しさや魅力を客観的に見ながら、ブランドとしての価値を見出し、将来的には6次産業への参入も視野に入れて活動していきたいそうです。

メンバーがお互いに刺激し合いながら、今後いろいろなことにチャレンジしていく食と農の創造プロジェクト。魅力ある農業のまちづくりのために活動を展開していきます。